

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

# 岐大の いぶき

2020-2021  
Autumn-Winter No. 40



MAKE NEW STANDARDS.  
東海国立  
大学機構



岐阜大学

# これからの 地域創生





「柳戸農場」 昭和59年 各務原農場から柳戸地区へ移転。応用生物科学部の実習や研究活動が行われています。

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報紙

# 岐大の いぶき

2020-2021  
Autumn-Winter No.40

published by



〔表紙写真〕

森部 絢嗣 准教授

## 04-11 【特集】 これからの地域創生

岐阜大学高等研究院Coデザイン研究センター 森部 絢嗣 准教授  
岐阜大学高等研究院地域環境変動適応研究センター

## 12-15 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

岐阜大学応用生物科学部 生産環境科学課程 応用植物科学コース 山田 邦夫 教授  
岐阜大学工学部 化学・生命工学科 物質化学コース 木村 浩 准教授

## 16-17 ひらけ！ 授業の扉

岐阜大学大学院医学系研究科「医療者教育学専攻修士課程」

## 18-19 いまを駆ける！ 岐大生FACE

Interview 岐阜大学ジャグリングサークル Juggrass代表 五十棲 大河 さん

## 20-21 Topics 岐阜大学のとりくみ Apr.2020→Nov.2020

## 22-23 新型コロナウイルス感染症対策とこれからの大学教育

## 24-26 岐阜大学基金

## 地域展開ビジョン2030

～地域の新たな価値の創造と知識集約型社会への変革～

岐阜大学は、令和2年度より一法人複数大学という新しい制度の下で名古屋大学と法人統合し、東海国立大学機構の一員となりました。東海国立大学機構は、大学・産業界・地域の発展の好循環を創出する我が国の新しいモデルを構築し、国際的な競争力向上と地域創生への貢献を同時に達成することを目指しています。また、岐阜大学と名古屋大学の強みのある分野を中心に、世界最高水準の研究を展開することで知の中核拠点化と国際通用性のある質の高い教育を両立し、国内外で活躍する次世代リーダーの育成を図ります。

岐阜大学が令和2年6月に発表した『地域展開ビジョン2030 ～地域の新たな価値の創造と知識集約型社会への変革～』は、これらのミッションの実現に向けて、今後取り組んでいく研究や産官学連携の基本方針とアクションプランをまとめたものです。3つの戦略「研究推進」、「産学協働」、「社会貢献」のもと、地域の課題を解決する22の研究プロジェクトを実施してまいります。今号では、22の研究プロジェクトのうち2つを取り上げ、岐阜大学が提案する“これからの地域創生”をご紹介します。

岐阜大学高等研究院Coデザイン研究センター

# 社会システムのデザインを 科学的アプローチから追求し、 持続可能な地域社会を目指す。



岐阜大学高等研究院Coデザイン研究センター  
岐阜大学応用生物科学部 野生動物資源学研究室  
(令和3年度 岐阜大学社会システム経営学環所属予定)

森部 絢嗣 准教授

## 新たなセンターの設立を機に 地域の課題にもっと寄り添う

岐阜大学は令和2年4月、「Coデザイン研究センター」という新たな組織を発足しました。地域の価値を高めて人々の生活を豊かにするため、「ひと・まち・かち」のデザインを科学的なアプローチから追究し、産官学が協働して活力ある持続可能な社会の実現を目指す組織です。これは、岐阜大学が今後取り組んでいく研究や産官学連携の基本方針とアクションプランをまとめた「地域展開ビジョン2030」の一環でもあります。

私が所属している同センターが特に力を入れているのは、研究した成果を社会実装につなげることです。さまざまな分野の専門家たちが集まっており、お互いの連携を深めながら、活力ある地域社会の実現を後押しすることを目的としています。

また、令和3年に、経営やマネジメントを実践的に学ぶことができる新学部「社会システム経営学環」が

新設されます。そこでは、まずは岐阜市に「地域ラボ」を設ける計画を進めています。Coデザイン研究センターも、この地域ラボをサテライト施設として活用し、さらに地域の企業や住民の皆さんと協働しやすい環境を整えていきます。地方が抱える課題と一括りに言っても、山間地、中山間地、地方都市では、状況が全く異なります。いずれは風土の異なる中津川市や高山市にも地域ラボを設け、それぞれのエリアの実情を知ることができれば、岐阜県のみならず全国の地方が抱える問題の解決に貢献できると考えています。

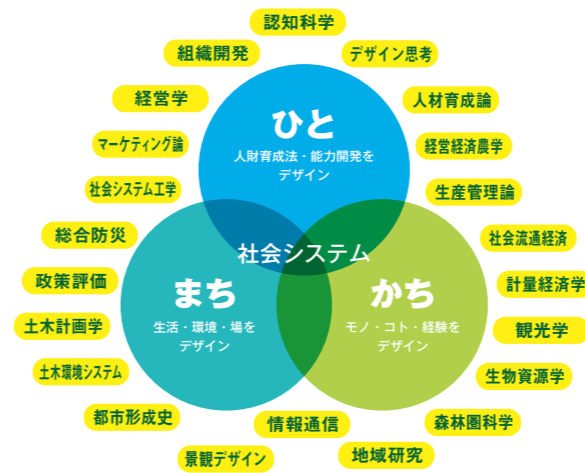
私が以前から取り組んでいる研究テーマ「鳥獣対策」についても、単に野生動物を研究しているだけでは、地域が抱える課題は解決しません。過疎、高齢化、教育や文化の継承など、多角的な視点で考えていく必要があります。私自身も、このセンターの特長を生かし、ワンキャンパスに集約された研究分野を横断する多面的視点から、地域が抱える問題の解決を目指しています。

## 狩猟免許を自ら取得し 山間部の鳥獣対策に取り組む

私は大学生の頃から野生動物学に関する研究を続けていますが、岐阜大学に赴任以降は、岐阜県内で農作物への被害が年々深刻化している「鳥獣対策」に取り組んでいます。以前から研究を目的とした野生動物の捕獲は行っていましたが、シカやイノシシなどの野生動物の管理を考えるためには、現場の実情を理解した上で狩猟者の方たちとコミュニケーションを取る必要があります。そこで、銃猟とわな猟の両方の免許を取得し、私自身も実際の猟を経験しながら、鳥獣被害の解決に取り組むことにしました。

実際に猟を行うと、やはり初心者では野生動物の捕獲が難しいことが分かります。ただ、よく狩猟者の方が言われるように「経験と勘が必要だ」といった話で終わっては、新しい狩猟者を短期間で育成して鳥獣害を減らすことはできません。

## Coデザイン研究センターが目指すもの



同センターが保有する  
コア研究のイメージ

## 地域づくりシンクタンク

岐阜大学は、東海国立大学機構のミッション実現に向けて、今後取り組んでいく研究・産官学連携の基本方針とアクションプランをまとめた「地域展開ビジョン2030」を令和2年6月に発表しました。Coデザイン研究センターは、地域展開ビジョン2030において、地域価値を高め、人々の生活を豊かにする「地域づくりシンクタンク」の役割を担っています。複雑かつ多様化する地域の社会課題に対して、同センターに在籍する多様な分野の研究者が、「ひ

と」、「まち」、「かち」のデザインを科学的アプローチから追求し、企業や自治体などと協働しながら持続可能な社会の実現を目指します。研究開発のターゲットは、都市計画、総合防災、商品開発、人材育成などを想定。近年の活動事例として、本項で取り上げた研究のほか、段ボールの製造開発を行う東濃コアー株式会社（恵那市）と「避難所での安全な生活空間をリサイクル素材で実現する製品」の共同開発などに取り組んでいます。



1. 猟に出る森部准教授。現場で得た知見を研究にフィードバックする。  
 2.3 LPWA通信システムを用いた捕獲支援システム「オリワナシステム」の機器を調査対象範囲に設置。機器はコンパクトで軽量なため、複雑な配線や大掛かりな工事が不要で、移設も容易にできるよう設計している。  
 4. わなによってシカの捕獲に成功。捕獲情報がクラウド上で瞬時に共有される。

そこで私は、誰でも簡単に捕獲できる方法をマニュアル化し、普及を図ることにしました。これにより、今まで全く経験がなかった地域の方が、狩猟を始めて3カ月で130頭のシカを捕獲するといった事例も出てきています。また、野生動物が大量に捕獲できるようになると、次はそれをどう活用するかという問題も生じます。そこで衛生的に解体を行うガイドラインを普及し、ジビエ料理として安全に提供できる体制を岐阜県とともに整備していきました。このような捕獲から資源利用までの一連の流れに関わるなかで、狩猟に使う新しいわなの開発にも取り組んでいます。わなを仕掛け

る際には、捕獲した動物への負荷の軽減や第三者への危険回避のため、毎日見回りをする必要があります。ただ、この作業に大変な労力がかかることから、携帯電話の電波が届かない圏外であっても獲物がわなにかかると自動で通知される仕組みを作ることができないかと考えていました。そんな時、平成28年の「ジビエサミット」というイベントで、通信機器を扱う株式会社フォレストシーさんと出会い、平成29年からLPWA通信を用いた野生動物捕獲用わな遠隔監視装置「オリワナシステム」の開発に取り組み始めました。

LPWAとは「Low Power Wide



Area」の頭文字を取った言葉で、消費電力を抑えながら長距離の通信を可能にする通信方式のことです。すでに電気メーターの確認や、ビニールハウス内の温度管理などの用途で広く使われています。ただ、一般的に使われているLPWA通信は、狩猟の現場となる山間部では、地形の問題で電波が遮られ

てしまいます。特に岐阜県は森林面積が全体の約8割を占めており、携帯の電波が届かないエリアが数多く存在するため、ほとんど使えないものになりません。そこで私たちは、電波の出力がより強く、双方向通信や中継機能などを備えた独自の通信規格「GEO-WAVE」を採用しました。

### わなの通知システムを発展させ圏外での新しい通信手段を構築

わな猟における野生動物の捕獲を知らせるわな通知システムは、株式会社フォレストシーさんが持つLPWAの技術を使い、私が現場で培った知見を活かしながら商品化を図りました。例えば、技術者の発想では、最適な受信状況でテストを行いがちです。しかし、実際の機器を利用する方の大半はIT機器の苦手な高齢者であり、適していない場所に機器を設置する可能性もあります。また、雨や風など自然環境の変化にも耐えなければいけません。そこで「いかに現場で使えるか」という視点で開発を進めました。

さまざまな試行錯誤を続けた結果、省電力・小型・独立電源で長時間使える装置「オリワナシステム」

が完成しました。ただ、狩猟グッズとして利用するだけでは、市場規模も小さく、開発費用も回収できません。そこで、狩猟以外のシーンでも使えるような通信プラットフォームの構築を目指しています。

「オリワナシステム」は平成30年に販売を開始し、すでに全国75カ所で導入されています。開発当初は、わなにかかった時の通知機能だけでしたが、そのうち「現場の画像が確認したい」「メッセージを送りたい」といった要望が聞かれるようになりました。これらが実現できれば、登山者が遭難した際の安否確認や捜索活動に活用できますし、携帯の電波が届かない山間部で作業する人たちの通信手段としても役立ちます。そこで現在は、メッセージや画像を送信する機能の実用化に向けたテストを行っています。このシステムは、利用者がスマホの専用アプリを使い、GEO-WAVE端末とBluetoothで接続することで、端末同士でのチャットや位置情報、SOSメッセージの送受信ができるというもの。このほかにも、不慮の事故や体調不良の早期発見につながるような脈拍・暑さストレスレベルの変化を送信するシステムや、圏外から気象情報を送る仕組みなど

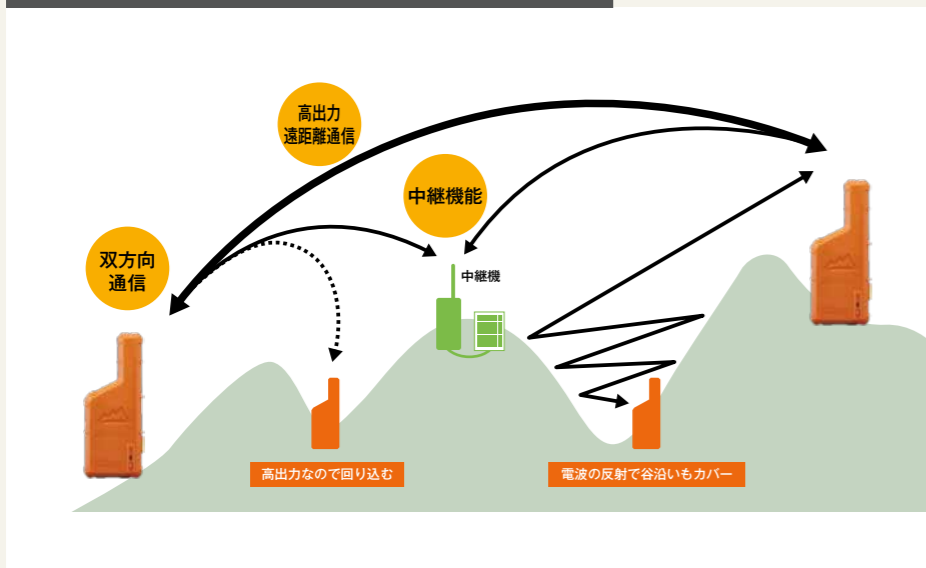


の開発も進めているところです。

GEO-WAVEを使った通信システムの大きなメリットは、大規模な基地局を設置する必要がない点です。独立した電源で稼働する小型の中継機を使って通信エリアを広げることができるので、設置にかかる費用も圧倒的に安く済みます。これにより、民間の携帯キャリアでは基地局の設置が難しいような過疎地でも通信インフラを確保し、「つながる安心感」を提供することが可能です。全国各地で過疎地が増えていく中で、今後はさらに大きな役割を果たす可能性を秘めています。

これからも全国各地からフィードバックされる課題と向き合い、Coデザイン研究センターに所属する異なる分野の専門家の知見を最大限活用することで、岐阜大学の地域貢献力を高めていきます。

### 山間部の携帯圏外地域で無線がつながる仕組み



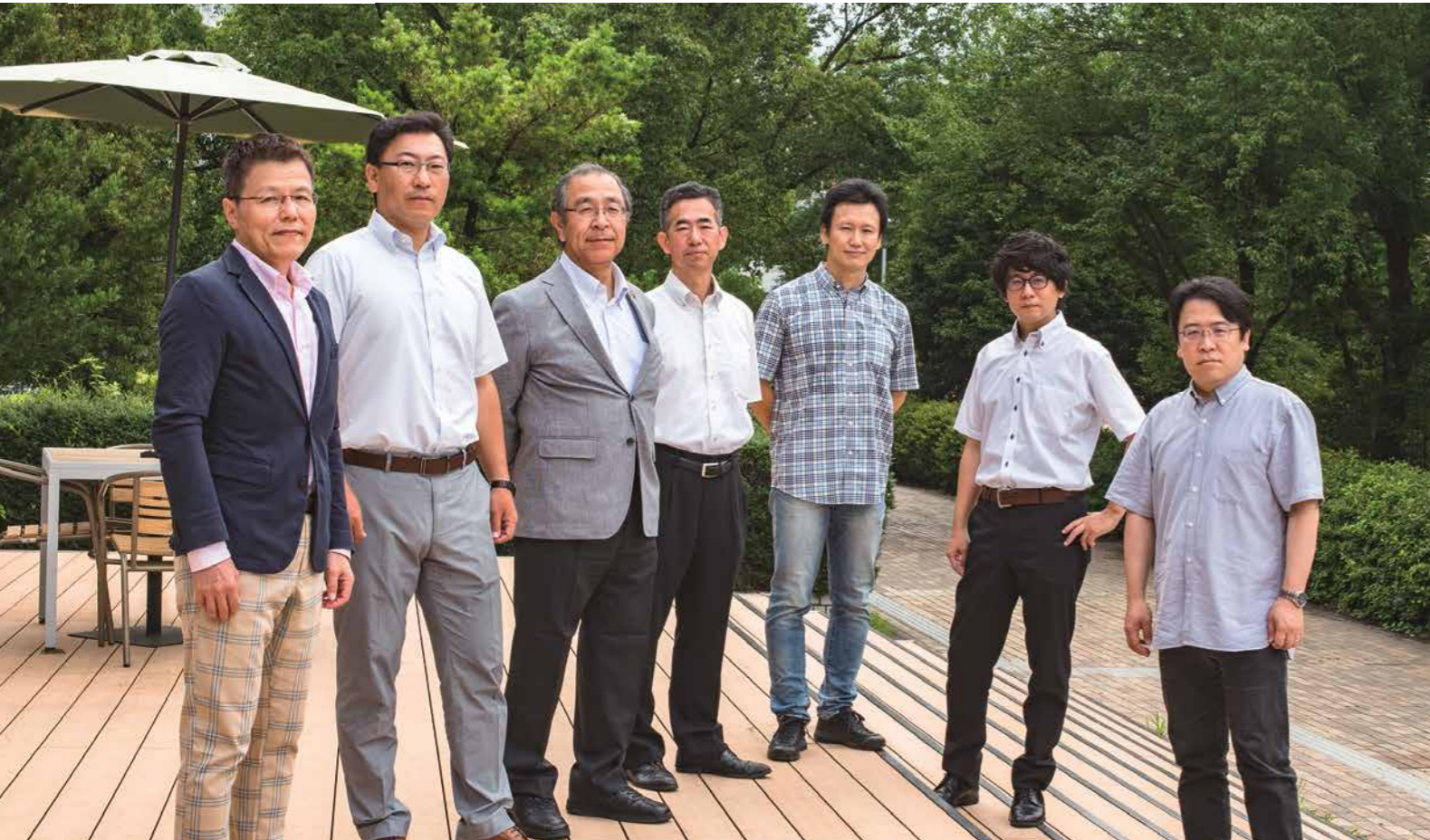
株式会社フォレストシーが開発した独自通信規格GEO-WAVEは「高出力・遠距離通信」「中継機能」「双方向通信」という3つの特徴があり、携帯回線や衛星回線も届かない山間部での通信を実現しました。また、電波が障害物を回りこんだり、反射したりする電波特性があるため、険しい山間部でも端末同士での無線やデータのやりとりなどができます。



GEO-WAVE端末と接続したスマートフォンを使って、携帯圏外地域でも、チャット、位置情報、SOS信号の送受信が可能です。自分のいる場所を座標として送ることによって災害時の安全を確保するなど、さまざまな用途での活用が期待されています。

岐阜大学高等研究院地域環境変動適応研究センター

# 持続可能な未来を目指し、 気候変動や人口減少などに対する 地域の対応策を構築。



## 気候変動と人口減少の問題を 複合的に考える組織を新設

原田 岐阜大学では、今年2月に地域環境変動適応研究センターを設立する以前から、気候変動が地域に及ぼす影響を予測し、その備えについて検討する研究プロジェクト「SI-CAT（気候変動適応技術社会実装プログラム）」を岐阜県とともに進めてきました。SI-CATが始動した平成27年頃は、地球温暖化を身近に感じている方は少なかったと思いますが、ここ数年、気象現象が一層激しくなり、全国各地で豪雨災害が多発したことで、社会

の風景は様変わりしました。地球温暖化の影響が自分たちの周りに忍び寄っていると認識される方が、非常に多くなったと感じています。SI-CATでは、主に気候変動への備えを対象にしておりましたが、岐阜大学では以前から「人口減少」にも強い問題意識を持っていました。中山間地域を多く抱える岐阜県では、急激な速度で過疎化が進んでいます。「温暖化」と「人口減少」というダブルパンチに対して早々に備えなければ、私たちの生活が維持できない。そんな強い危機感を抱きながら取り組みを続けてきたのです。

5年間にわたるSI-CATの活動を通じて、県の行政担当者の方々と強い信頼関係が醸成され、全国の研究者とのネットワークや、岐阜大学内での組織の垣根を越えた新たなコミュニティも生まれました。SI-CATの取り組みは平成31年度で終了しましたが、岐阜県から引き続き将来的な気候変動への適応に向けた支援を依頼されたのを受け、これまでの成果を糧に、気候変動のみならず人口減少にも向き合いながら、「将来の地域の姿」を描くための場としてセンターが設立されることになったのです。地域環境変動適応研究センター

## 地域環境変動適応研究センターのミッション

「温暖化」と「人口減少」が進むと、自然環境のバランスが崩れ、暮らしや伝統も影響を受けます。これらの社会環境変化への「適応」に向けて、6つの部門の研究手法と知見を統合し、地域視点で総合評価する手法を構築。さらに地域や行政と協働することで自然災害や気候変動に適応できる研究の開発を推進していきます。

地域連携研究部門 部門長  
**野々村 修一** 特任教授  
社会実装方法の研究/行政機関との連携  
窓口/他研究部門との連携手法の検討



社会システム研究部門 部門長  
**高木 朗義** 教授  
(岐阜大学工学部社会基盤工学科所属)  
気候変動・人口減少が地域経済とコミュニ  
ティに与える影響と適応策の検討



森林研究部門 部門長  
**村岡 裕由** 教授  
(岐阜大学流域圏科学研究センター所属)  
森林による温室効果ガス吸収能とその変  
動予測/森林管理・林業分野における適  
応策の検討



センター長  
**原田 守啓** 准教授  
(岐阜大学流域圏科学研究センター所属)



6部門が連携し、  
気候変動や人口減少に  
対する適応策を検討



水環境研究部門 部門長  
**大西 健夫** 准教授  
(岐阜大学応用生物科学部所属)  
水資源や物質動態に対する温暖化影響の  
評価/河川・農地の生態系、水産魚種へ  
の影響と適応策の検討

## 理想の未来の姿

- 豪雨や強い台風でも、命を守り、資産の被害を受けにくいまちへ。
- 子どもたちが一度地元を離れてもやがて戻り、地域を盛り上げている。
- 川の管理部署や漁協だけでなく、さまざまな人が川の環境を守る行動をする。
- 川が守られ、川の環境や生物多様性が保たれる。



農業適応研究部門 部門長  
**松井 勤** 教授  
(岐阜大学応用生物科学部所属)  
岐阜県主要農産物への気候変動影響  
/気候変動適応策としての作付け品種  
転換・育種等



地域気候変動研究部門 部門長  
**吉野 純** 准教授  
(岐阜大学工学部社会基盤工学科所属)  
気候変動予測に基づく地域の気候変動影  
響/台風・豪雨・渇水等の極端気象現象の  
将来予測

の最大の強みは、世界トップレベルの研究者が岐阜大学というワンキャンパスに集まっていること。これを活かし、当センターでは各研究者が密につながり合い、総合的に研究を進めることが可能です。地方大学としては珍しく、気象学から現場の議論へとつながれる専門家がいることのほか、岐阜大学には以前から持続的な自然資源の利用を実現する流域圏科学研究センターが設置され、森林や水、土壌の研究者による強固な連携関係ができていた点も特徴です。さらに、地域からのニーズが強い農業分野の専門家や、人口減少を議論するうえで欠かせない社会システムに関する知見をお持ちの先生もいます。これまでのSI-CATの取り組みをきっかけに、数多くの心強い先生方にお集まりいただけたことで、非常に充実した研究体制を整えることができたと感じています。

## 6つの部門が連携しながら 地域のあるべき姿を探る

村岡 私が部門長を務める森林研究部門では、森林に着目し、温暖化に影響を及ぼす二酸化炭素などの温室効果ガスの吸収能とその変動予測、さらに森林管理、林業分野における適応策の検討などを行っていきます。岐阜県は面積の8割以上を森林が占めており、木材など再利用可能な有機性資源の生成、雨水の制御など、「生態系サービス」と呼ばれるさまざまな機能の恩恵を受けています。しかしながら、温暖化によって岐阜県下の森林も大きな影響を受け始めています。典型的なのが、桜の開花や紅葉の時期のズレです。私たちはこれらの気候変動による影響に適応するため、気候変動の研究に資する情報を岐阜県に提供すると同時に、科学的な知見に基づいた策を検討していきたいと考えています。さらに、地域社会

への啓発活動として、学校での講演会なども行っていく予定です。高木 災害は、自然現象単独ではなく、社会現象との掛け合わせによって生まれます。例えば、ある場所で土砂が崩れたとしても、無人島であれば災害とは言いません。土砂が崩れることで建物が壊れたり、人が死傷したりすることで、はじめて災害となるのであり、気候変動についても、私たちがどのように暮らしていくのが大切です。そこで私たち社会システム研究部門では、気候変動・人口減少が地域経済、地域コミュニティに与える影響について、社会システムの観点から適応策を考えます。最近の災害を見ると、死傷者の多くが高齢者であり、地域社会の状況が被災状況に大きな影響を及ぼしていることが分かります。気候変動・人口減少がこのまま進行すれば、これまでの暮らし方を見直すことも考えなければなりません。既成

概念にとらわれず、適切な場所への住み替えなども視野に入れながら対策を検討していきたいです。

**松井** 私たち農業適応研究部門では、岐阜県の主要な農産物への影響や、気候変動の適応策として、作付け品目の転換や育種などについて研究を行っています。今後の気候変動によっては、これまで地域の特産品だった農産物が育たなくなる可能性もあります。すでに不安に駆られている生産者さんも少なくありません。岐阜県は、国内有数の柿の産地として知られていますが、近年の気温上昇によって、果皮の着色不良といった栽培上の課題が浮き彫りになってきています。こうした課題に対して、農作物の品質や収量の影響を調査することで、その適応策を検討していきます。さらに、これまで栽培されてこなかった亜熱帯の果樹など、新しい作物品目による代替案も検討し、温暖化を新たな事業につなげる方策も提示していきたいです。

**吉野** 地域気候変動研究部門は、気候変動の適応策を探るために欠かせない気候情報を、地域の方々に信頼度の高い形で提供するのが主な役目となります。そのため、専門的で分かりづらい気候情報を、一般の方でも扱えるものにするのが大切だと考えています。また、気候変動の研究は、全地球をシミュレーションした議論が中心ですが、岐阜県における気候変動への適応を考える場

合、ローカルな規模の議論と情報が欠かせません。私たちはこれまで、愛知県と岐阜県を2kmの細かな網目に区切って気象を予報する取り組みを行ってきましたが、この技術を使い、地域に根差した気候変動の適応に貢献していきたいです。

また、最近では、あらゆる産業で気象情報が活用され始めています。モノの売れ行きは、日々の気象の変化にもすごく影響を受けており、私たちのデータを使いながら需要を先読みし、新たなビジネスチャンスにつなげる仕組みづくりなどにも取り組んでいきたいです。

**大西** 水環境研究部門が主に取り扱うのは「水」と「土」であり、この2つを考えるとときに重要となるのが「流域」という単位です。雨が降り、その水が川に流れて海へと向かう。その水が集まってくる範囲のことを「流域」といいますが、私たちはこの流域における森林や河川の水量、水質、温度の変化などを評価・分析する研究を通じて、各部門のハブ的な役割を担います。

温暖化がもたらす水量、水質、水温の変化は、岐阜県の食文化や経済と密接な関わりを持つ鮎の生態にも大きな影響を与えます。そこで私たちは、河川の水量、水質、温度などを計測し、今後どんな変化が起こりうるのかを分析しています。また、土壌中の水分量、温度、水質のデータは、森林の生態系や農作物の生育の基盤となるものであり、農業

における適応策を考える上でも大いに役立つはずですが、将来的には、水の環境について科学的に分析する「水文学」の知見を活かし、流域で起こっていることをリアルタイムで提示できるツールを開発できればと考えています。

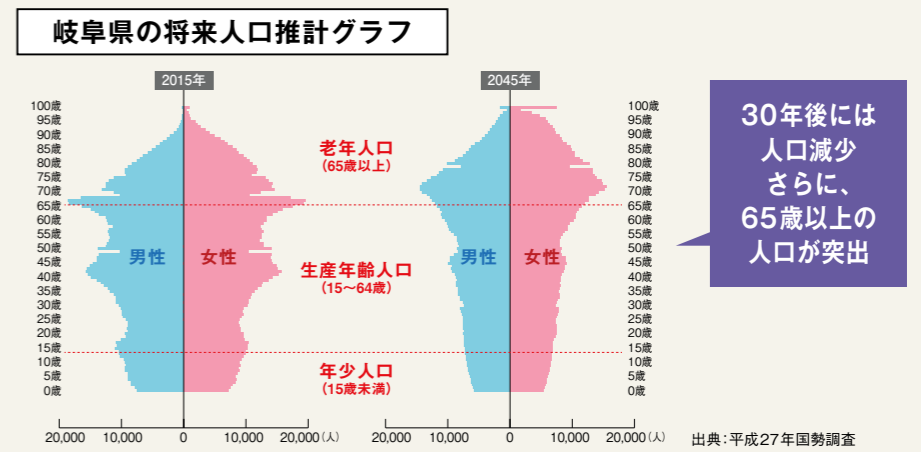
**野々村** 私が所属する地域連携研究部門は、各部門の先生方が取り組んでいる研究を、どう社会に売り込んでいくのかを考える役割を担っています。地域環境変動適応研究センターは、地域の方や行政、事業者との連携を強く意識し、研究結果の発表に留まらず、そこで得た知見を地域社会が抱える問題の解決につなげることを打ち出しているのが特徴です。この「地域との連携」に欠かせないのが地域連携研究部門であり、社会実装に向けて具体的な成果を出すところまでフォローしていきたいと考えています。

### 誰もが当事者として考え行動を起こすことが重要

**原田** 岐阜大学が打ち出す「地域展開ビジョン2030」を通じて私たちが目指しているのは、気候変動や人口減少などの激しい変化が起こる中で、いち早く適応する地域の姿を、岐阜の地で実現させることです。そのためには、具体的にどんな変化が起こるのかを各研究部門の視点から科学的に予測し、地域の方たちと一緒に考えていく姿勢を大

切にしています。現時点では行政の方々との関わりが中心ですが、今後は、地元の産業界とも手を携え、新たなビジネスを掘り起こしていきたいです。打たれ強く、なおかつ、稼げる。そんな岐阜の新しい姿を目指したいと思っています。

すでにいくつかの共同研究が動き始めています。岐阜の名物である富有柿については、今後も栽培に適した場所であり続けられるかなどを検証しています。また、近年被害が増加する雪害や強風の被害については、森林研究部門の村岡先生、地域気候変動研究部門の吉野先生たちの分析を基に、どの場所にどれぐらいのリスクがあるのか評価を進めています。そのほかにも、岐阜県が分析した中小河川の水害情報や、巨大台風の発生予測などを基に、地域の防災・減災体制をいかに維持していくのか議論を行っていますし、河川の氾濫リスク、コメの品質・収量の予測、生態系の変化など、これまでバラバラに評価されていたものを総合的に評価する調査手法の開発にも取り組んでいます。これらの共同研究のポイントは、行政の方々が持つ現場の情報や経験です。そこへ大学が持つ専門的かつ科学的な知見を組み合わせることで、より深く、地に足のついた適応策の構築が可能になります。今回、地域環境変動適応研究センターが設立されたことで、岐阜県のさまざまな情報が提示されるようになり、



地域の方々にとっても、よりリアルティのある議論ができる状況が生まれたと感じています。

どの共同研究にも共通するのは、当事者と一緒に考えていくというスタンスです。その典型的な例が、長良川の鮎に関する取り組みです。長良川では近年、気候変動の影響で洪水が頻発し、鮎の生育に大きな影響が出ています。そこで長良川流域で起こっている変化を調査し、将来予測モデルを開発したり、対応策を検討したりしていますが、この活動の基礎データとなる水温測定は、現場の漁業者の方々をお願いしています。長良川鮎飼関連の事業者さんたちも、3年連続で洪水の被害に見舞われたことで強い危機感を抱いており、鮎飼船が出なくてもお金が回る仕組みづくりについて、前向きに取り組んでいただいています。

気候変動や人口減少の問題に立ち向かうためには、誰もが当事者であるという意識を持つことが大切で

す。気候変動は、決して他人事ではありません。今後も私たちは、さまざまな研究を通じて気候変動に関する情報を発信し続けていきますが、その情報を正しく受け取ったうえで、ご自身のライフスタイルを見直すきっかけにいただければと思います。

折しも新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、私たちの生活様式は大きく変わりつつあります。これには、生命・健康に対する差し迫った危険があることが大きく作用していると思いますが、気候変動や人口減少の問題も、新型コロナに比べれば遅いものの、確実に忍び寄っている非常に大きな危機です。数十年という単位は、地球全体の歴史から考えれば、とんでもなく短い期間です。が、このまま放っておけば、今の子どもたちは、間違いなく大変な事態に直面します。これを回避するためにも、地域、行政、大学の力を融合させ、「持続可能な岐阜の未来」を実現していきたいです。

### [ 2020年の具体的な取り組み ]

**①温暖化に伴うカキの影響評価と栽培適地マップ作成**  
カキの着色に関する高温被害マップのほか、転換品目として想定される果樹の予想作付け適地マップを作成。



**②雪害・風害リスクの将来予測**  
豪雨頻度や強度の増大、雪害をもたらす雪の発生頻度増加が指摘されている将来的な自然災害リスクを分析する。



**③洪水・土砂災害頻度の増加と人口減少の総合評価**  
氾濫浸水想定区域図や水害危険区域図の情報に人口動態予測を合わせ、将来台風や豪雨が及ぼす影響について分析する。



**④将来気候における台風や豪雨の温暖化影響評価**  
地球温暖化を考慮した気候モデルや高解像度気象モデルを用いて、台風や豪雨が及ぼす影響を分析。また、これらに対応できる技術支援及び人材育成を検討。

### [ 社会実装に向けた取り組み ]

「安心な暮らしのヒントBOOK @ぎふ -増える災害と減る人口にどう備える?-」発行

気候変動における地球温暖化と人口減少が地域の将来に及ぼす多大な影響を、研究成果を用いて解説。災害に強く、持続可能な岐阜の未来を実現するために地域全体で主体的に取り組む意識を啓発することを目的に発行。WEB上での閲覧や、PDFでの出力に対応。



# バラの切り花は、もっと大きく咲ける！ 農産物としての価値向上を目指し、 植物に秘められた能力を引き出す。

園芸学には「花き」「果樹」「野菜」の3分野があります。「花き園芸学」を専門とする私は、「花の能力を科学的に解明し、価値を高める」ことをポリシーに、主にバラを対象とした研究を行ってきました。現在は、切り花の品質向上に取り組んでいます。



岐阜大学応用生物科学部  
生産環境科学課程 応用植物科学コース  
**山田 邦夫 教授**

糖代謝をどのように操るかが、  
大きく咲かせるためのカギ。

花束と聞くと多くの人がバラを思い浮かべるでしょう。それほどメジャーなバラですが、暑さでおれやすいなど課題も多く、研究のしがいがある花でもあります。私がバラの研究を始めたのは、今から20年ほど前のこと。博士研究員として着任

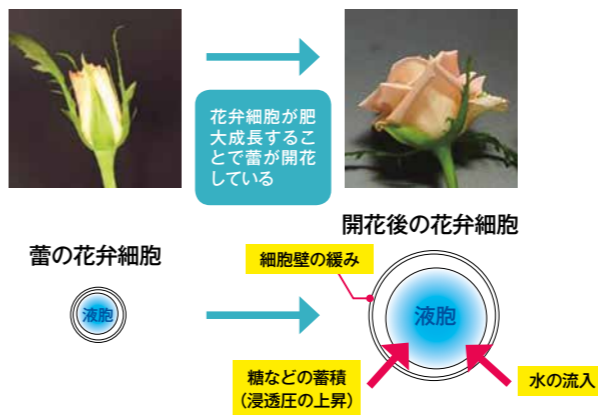
した農林水産省の試験場で、上司が専門としていたのがバラだったことから、この研究が始まりました。

お店でバラを買うと、鮮度保持剤が付いてくることがあると思います。実はあの中には、糖と抗菌剤が入っているのです。当時、糖にバラの切り花を長持ちさせ、よく咲かせる効果があることを上司が突き止めました。そこで私はそのメカニズム

の解明を、糖の代謝や遺伝子発現といった面から試みました。判明した開花メカニズムは、「花びらで糖の代謝(変換)が進むと、花弁細胞への糖の取り込みと水の吸収によって蕾が膨らみ、開花する」というものでした(図1)。

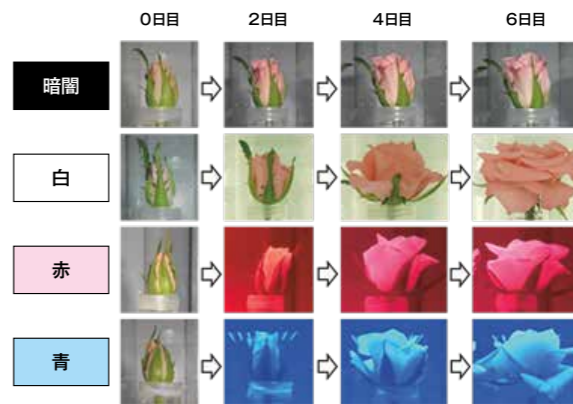
この研究成果に基づいて現在取り組んでいるのが、バラの切り花をより大きく咲かせる研究です。切り花

図1 バラの開花メカニズム



研究で明らかになった、バラの開花メカニズム。花びらにおける糖代謝(変換)が進むと、花弁細胞内に糖が引き込まれ、蓄積する。すると浸透圧が上昇し、細胞壁に緩みが生じて水が流入することで、細胞が肥大成長し、開花する。

図2 光の波長(=色)と開花速度の関係



光の波長によって、バラの開花速度が変化することを発見。このことから、光の波長が花びらの生理的代謝に関係していると考えられる。特に赤色LEDでは開花スピードが遅くなるため、輸送時や保管時の開花抑制に利用できるのではないかと期待される。

は蕾の状態で収穫され、飾っている間に徐々に開花し、やがて満開を迎えます。ところが同じ満開でも、切り花は樹上のバラと比べて小さいのです。そこで本来バラが持つ、大きく咲く能力を最大限に引き出したいと考えました。

大きく咲かせるためのカギは、開花メカニズムのうち、花びらの糖代謝をいかに促進するかにあります。考えられる方法は2つ。1つは、花びらにある酵素「インペルターゼ」を活性化すること。切り花は樹上のバラと違い、糖代謝を促すインペルターゼの活性が弱いことが明らかとなりました。そこで切り花に、インペルターゼを活性化させる植物ホルモン「オーキシン」を与えれば、バラを大きく咲かせることができるのではないかと考えています。もう1つは、光を利用することです。光の波長(=色)は、花の成長速度に影響します。例えば、赤色の光を照射すると、バラの開花速度は遅くなります(図2)。そのため、光は花の生理的代謝に何らかの関連性があり、それを利用すれば開花速度をコントロールできると想定しています。

現在、「糖」に加えて「オーキシン」と「光」を切り花に与え、開花の際の糖代謝に関わる遺伝子発現や酵素活性・糖組成について、経時

的变化を分析しています。しかし、どれか一つの要素で課題が解決するほど単純ではありません。例えば、光を照射すれば葉で光合成が起き、糖が産生されますが、その大部分は葉にとどまり、花びらには届きません。生け水に過剰に糖やオーキシンを与えた場合も、その多くは葉に蓄積してしまい、葉害が出てしまうのです。そのため、生け水からではなく、ミスト状にして花びらに直接オーキシンをスプレーするなど、新たな方法を開発し、複合的なアプローチを行う必要があると考えています。

「いかに産業に役立てるか」が  
農学研究者の使命。



現在の研究目標は「大きく咲かせる」ことですが、以前に私が目指したのは、切り花を「長持ちさせる」ことでした。花瓶に生けてから満開になるまでの期間が長ければ、消費者は長く楽しめ、満足度が高まると

考えていたのです。しかし、花は満開になる前にしおれてしまう可能性もあります。私はバラ生産の盛んな岐阜県大野町や瑞穂市の生産者と交流する中で以前、「たとえ開花スピードは早くても、確実に大きく咲く方が、消費者の満足度は高く、購入の動機につながるのではないか」という声を聞きました。その時、改めて自分の研究を見つめ直し、現在の目標が定まったのです。

「農学の研究は産業のためにある。研究のための研究ではない」。これは、本学の副学長であり園芸学研究室の前任者である福井博一教授の言葉です。農学研究者の使命は、産業に役立つ成果を出すこと。それには「現場を知り課題を発見する」、「科学的にメカニズムを解明する」、そして「いかに応用するか」。私はこの3段階のどれ一つも欠かしてはいけなと、常に強く意識をしています。

バラの切り花を大きく咲かせることが可能になれば、消費者の満足度が上がるだけでなく、蕾が小さい状態で収穫・出荷ができるため輸送中の損傷も減らせ、一層、バラの価値が向上するでしょう。消費者と生産者の両方に喜ばれる技術の確立を目指し、これからも研究を続けていきます。

# 生産性向上とコスト削減を両立し、 インフラの長寿命化につながる 次世代コンクリートを開発。

岐阜県内の民間企業と共同で、土木・建設現場が抱える課題を解決しようと、業界の新たなスタンダードになりうる画期的な次世代コンクリートを開発しました。今後はこの技術を国内外に普及させ、インフラの長寿命化などに貢献できればと考えています。



岐阜大学工学部  
化学・生命工学科 物質化学コース  
木村 浩 准教授

共同研究が始まったきっかけは  
学内の産学連携交流会でした。

私は長年に渡ってエレクトロレオロジー（ER）流体について研究を行っています。ER流体とは、電圧をかけると粘度が変化する性質を持つ物質のこと。岐阜大学に着任以降は、ER流体の中でも、水に微粒子を加えた「水分散液」に着目して研究を進めてきました。

私が水分散液の中でも特に注目してきたのが「クレイ水分散液」です。これは、水に粘土鉱物の一種クレイ成分を加えたもので、塩濃度を上げると固体化する性質があります。この固体は流動刺激の有無によってゾル（液体状態）とゲル（固体状態）を往き来し、「物理ゲル」と呼ばれます。この特性を何かに活用できないかと、平成31年に岐阜大学で行われた産学連携の交流会

でパネル展示を行ったところ、コンクリートの設計施工を手掛ける「株式会社安部日鋼工業」の方に出会いました。そこで、物理ゲルの性質をコンクリートに生かせないかという話になり、次世代コンクリートの研究開発が始まりました。

土木建設の現場などで使われるコンクリートは、水、セメント、砂利を混ぜたものを型枠に流し込み、水とセメントの化学反応によって硬化

させます。コンクリートが硬い状態では充填作業に労力がかかるため、薬剤を加え、「フレッシュコンクリート<sup>※1</sup>」と呼ばれる柔らかい状態で現場まで運ばれます。しかし、薬剤が高価なこと、そして、大量のセメントが必要になるため、コストがかかります。また、柔らかい状態では材料分離<sup>※2</sup>が起き、硬化した後のコンクリートがもろくなりやすいという欠点がありました。ただ、具体的な解決策はなく、土木・建設業界では、充填しやすい上に強度が高く、さらにコストも低いコンクリートなど不可能だといわれていました。

そこで注目したのが、物理ゲルです。もともと物理ゲルの特性は化粧品に応用されることが多く、コンクリートとの組み合わせは意外なものでしたが、開発は順調に進み、全く新しいコンクリートが完成しました。

国内外のインフラ整備に  
広く貢献していきたい。



私たちが開発した次世代コンクリートは、粘土鉱物であるクレイナノシートをコンクリートに少量混ぜ込みます。すると、静置すると形状を保持し、振動を与えると柔らかくなるという物理ゲルの性能が発現します。固まる前からある程度形状を保持して自立しつつも充填しやすく、コンクリート工事の生産性が高まります。

また、クレイナノシートの添加量や振動条件を変えることで、セメ

ントと水の配合を変えることなく流動性を高め、柔らかさを調節することも特徴です。これにより、構成成分を均一な状態で充填できるようになり、材料分離が起こりづらくなります。さらに、クレイナノシートはフレッシュコンクリート中の余分な水を吸着し、硬化後も内部から外へと緩やかに水分を供給するため、組成物が緻密になって耐久性も高まります。しかも、添加するクレイナノシートはごく少量で済むため、従来の薬剤に比べて非常に安価である点も大きなメリットです。

物理ゲル性能を付与した次世代コンクリートは、これまで建設業界が抱えていた課題を解決できると期待しています。そして、道路や橋梁、建設物といったインフラの長寿命化にも大きく貢献できると考えています。私が研究に取り組む上で大切にしているのは、研究の成果を地球環境の保持・改善につなげ、人々の役に立つものづくりを通じて社会に還元することです。今後はこの次世代コンクリートの特許技術を実用化した上で、さまざまな企業や機関と連携し、国内外に広く普及させていきたいと考えています。



セメントに混ぜる、ゲル状のクレイナノシート。ごく少量で、フレッシュコンクリートに物理ゲルの性能を付与できる。

## 物理ゲル性能を付与した フレッシュモルタル



①は、物理ゲルの性能を持たせたフレッシュモルタル（コンクリートと同じくセメントを原料とした砂利を含まない材料）を、円錐形の容器に入れて静置したものを、容器を取り除いても円錐形のまま自立した状態を保つ。このフレッシュモルタルに振動を与えると、②→③→④のように徐々に円錐形の原形を留めなくなり、柔らかい液体のような状態となる。振動を止めれば、再び形状が保持される。

### 用語解説

#### ※1フレッシュコンクリート

水とセメント、砂利を練り混ぜた固まる前の柔らかいコンクリートのこと。「生コンクリート」「生コン」などともいわれる。セメントに対して水分の割合を高めると流動性は高まるが、硬化後の強度が下がる。構成成分の配合は、工事の環境によって異なる。

#### ※2 材料分離

フレッシュコンクリートの構成成分が不均一になる状態。運搬中や型枠内への打ち込み中に、材料である砂利やセメントが一部に集中することや、打ち込み後に水分がコンクリート上部に上昇してくる現象のことをいう。材料分離が生じるとひび割れが起こりやすくなるなど、構造物の安全性や耐久性に悪影響を及ぼす。

木村先生に出会うまでは、業界内の狭い世界で課題を解決しようと模索を続けてきましたが、岐阜大学の交流会に参加したことで、従来にはない斬新な発想のコンクリートを開発できました。今後はクレイナノシートの最適な添加量などを検証し、普及に向けたPR活動にも力を入れていきたいです。

株式会社安部日鋼工業  
技術工務本部 技術開発部長 宮島 朗 さん





ひらけ！  
授業の扉



岐阜大学  
医学教育開発研究センター (MEDC)  
今福 輪太郎 併任講師

岐阜大学  
医学教育開発研究センター (MEDC)  
西城 卓也 准教授

岐阜大学大学院医学系研究科「医療者教育学専攻修士課程」

## 医療者教育のエキスパートを育成する、 日本初・唯一の修士課程が誕生。

### 岐阜大学大学院医学系研究科 医療者教育学専攻修士課程

対象学生：医療系教育研究機関や医療機関などにおいて、  
医療者教育の実務経験を2年以上有する者  
(医師・看護師・薬剤師・歯科医師・理学療法士・作業療法士など)  
履修期間：2年間

令和2年4月、岐阜大学大学院医学系研究科に開設。医療系大学の教員や医療機関の指導医など、医療系学生や若手医療者の教育に携わる人が「教育方法」「評価方法」「カリキュラム開発」といった医療者教育の理論・方法論を習得し、エキスパートを目指す課程。働きながら学べるよう遠隔授業を活用し、教員・学生ともに医療職種を超えてコミュニケーションを図りながら医療者教育について学び合えるカリキュラムです。国際的な学位「医療者教育学修士 (MHPE)」の取得も叶います。

従来、医療系学生や若手医療者への教育は、主に医療者が各自の経験や持論をもとに行っていました。しかし、時代とともに医療者教育の方法は多様化してきました。一方の講義とは異なり、議論やグループワークを通して学ぶ「アクティブラーニング」は、その一例です。医療者へ教育を行う者には、医療の専門性に長けているだけでなく、「教育学」の知識が求められるようになり、海外では「医療者教育学」を学ぶ修士課程が続々と設置されています。

こうした世界的な潮流を受け、岐阜大学では令和2年4月、日本初の医療者教育学専攻修士課程を開設しました。平成13年には医療分野で国内初の全国共同利用施設「岐

阜大学医学教育開発研究センター (MEDC)」を設置し、日本の医学教育を牽引してきた本学が、医療者教育のエキスパートの育成という新たな役割を担います。

学ぶ内容は、「教育」「評価」「カリキュラム開発」の3本柱から成る医療者教育の理論・方法論。これらを体系的に習得するとともに、所属機関の医療者教育を改善できる視野を養います。最大の特色は、多職種の学生が現場の多様な課題の解決に必要な職種間連携を、多職種の医療分野の教員から学べる体制。加えて、教育学や心理学・コミュニケーション学・経営学など非医療分野の知識を、専門教員が指導します。

国内にある本学で学ぶメリット

は、世界基準の教育理論を日本式に落とし込んで学べる点にあります。例えば、医学部で採用されている、世界標準の教育手法の一つ「PBLテュートリアル」。学生自身で問題を発見し、議論しながら解決方法を考える少人数型教育ですが、日本では活発な議論が起こらない場面が多々あります。その原因を、日本人の特性や文化、心理メカニズムなどから理解し、日本に合った形で採り入れる能力の獲得を図れるのです。修了後は、各自の所属機関でリーダーシップを発揮し、日本の医療者教育の質向上に貢献してほしい。さらには、すぐれた教育手法を創出して世界に発信してほしいと期待します。

### カリキュラムの6つの特色

世界標準の教育理論を、日本で働きながら効果的・効率的に学べる体制。

#### オンライン学習と 現地学習のブレンド

多忙な医療者でもある履修者が空き時間に学びやすいe-learningと、岐阜キャンパスでの短期集中型学習を効果的にブレンド。

#### 柔軟な自主的学習を 支えるツール

各自のペースで学習を進められるよう、段階を細かく分けた課題を設定。学習支援システムを利用した、学生同士の議論も可能。

#### グローバルマインドを 育成する学習コンテンツ

遠隔授業で海外の最新研究に触れ、世界標準の教育理論・モデルを修得。同時に日本人の特性や文化を学習し、日本に合った教育のデザイン力を養う。

#### 実践・問題 基盤型学習

学生自身が教育者として実施している医療者教育の改善につながるよう、各自の課題を題材とした問題基盤型学習を行い、理論を実践的能力へと高める。

#### 「多職種の学生×多職種の教員」 の連携教育

医療現場に必須の多職種連携教育を効果的に学べるよう、多職種の学生による学習・研究を、多職種の教員が責任を持って支援する。

#### 熟達度の可視化による 学びの促進

習得すべき能力の全体像に対し、その時点での到達度の確認が可能な評価ツールを導入。伸びしろのある能力を明らかにし、学びを促進。

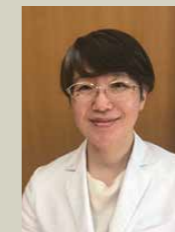
### 獲得を目指す能力

- 優れた教育能力
- 医療者教育における協働力
- 日本にふさわしい教育の設計力
- 教育機関の先導力
- 教育における学識の発信力

### 履修者インタビュー

東京慈恵会医科大学  
教育センター

岡崎 史子 准教授



今まで、医療者教育学をしっかりと学ぶには、海外へ行くしかありませんでした。日本で初めて岐阜大学に医療者教育学の修士課程が設置されると知り、迷わず受験しました。実際に授業を受講してみると、今や教育は理論を知らなければならず、さらに学問として生きていて変化するものだと実感しています。卒業までにキャンパスへ行きたいのですが、医療者教育のリーダーを目指し学びを続けていきます。

鹿児島大学病院  
歯科総合診療部

大戸 敬之 助教



現在、私は歯学部で教員として働いています。医療者教育についてより深く学びたいと考えた時、日本初の修士課程で「日本で学ぶ」ということに惹かれ志望しました。MEDCの先生方が本気で作成したカリキュラムや、同期の先生方の学習に対する姿勢も素晴らしく、新しい学びばかりの日々です。今後は「教育にエビデンスを」をモットーに、さらなる研究と実践に活かしたいと考えています。

帝京平成大学  
健康メディカル学部  
理学療法学科

芳野 純 准教授



理学療法士の教育は他職種と比較しても非常に遅れており、まずは体系的な医療者教育を学びたいと考えました。履修者の職種はさまざまですが、授業では同じ院生という立場で議論するため、幅広い視点で物事を考える力が身に付いていると感じます。修了後は、所属大学で理学療法士教育に関する科目を持つことが目標。将来的には、理学療法士の資格取得に関する教育の改善を提言していきたいです。

# 「諦めずに練習すれば、きっと成功する。 仲間と一緒に、ジャグリングで観客を笑顔に。」

さまざまな道具を使って、ダイナミックな技を披露するジャグリング。

「岐阜大学ジャグリングサークル Juggrass」では、メンバーがいつも和気あいあいと練習を重ねている。

代表の五十棲大河さんは、積極的に練習を企画し、サークル全体を引っ張る存在だ。



岐阜大学ジャグリングサークル Juggrass代表  
いそずみ  
**五十棲 大河** さん  
岐阜大学工学部 電気電子・情報工学科2年

## 岐阜大学ジャグリングサークル Juggrass

平成28年、有志の呼びかけでジャグリング同好会として発足。翌年、サークルへと昇格。現在は約25名のメンバーで活動を行う。週3~4日の活動日にメンバーがさまざまなジャグリングの道具を持ち寄り、練習に励んでいる。大きなイベントは、毎年5月に行われる岐阜大学春祭と、11月に行われる岐大祭でのステージ披露。そのほかにも、地域の子ども会や福祉施設のイベントに出演したり、ジャグリングの大会に出場したりしている。



### ディアボロ

2つのお椀をつなげたような形のこまを、2本のハンドスティックに通した紐の上で回転させて安定させ、自在に操る。



カラーコーン



シガーボックス



クリスタルボール

メンバーは授業の空き時間を見つけて積極的に練習を行う。ジャグリングにはさまざまな道具があるが、各自が得意とするものを見つけ、その技を重点的に突めている。時には、仲間の道具を借りてチャレンジすることもあるという。

## 努力する大切さを知れたことと、 素晴らしい仲間に出会えたことが財産です。

練習して、成功する瞬間が嬉しい。  
大切なのは、諦めないこと。

私は岐阜大学に入学してからジャグリングを始めました。サークルの新生歓迎会で偶然、先輩に声をかけていただいたのがきっかけです。初めて挑戦したのは、「カラーコーン」という道具。初めてでも上手くできる人もいますが、私は全くできなくて悔しい思いをしました。それが「ジャグリングをもっと上達させたい」という気持ちにつながりました。

練習は学内の大ホールや武道場のほか、屋外の広場で行うこともあります。ジャグリングは個人競技のため、各自が自主練習も積極的に行っています。私は「ディアボロ」という道具を主に専門にしており、先輩に教えてもらったり、WEBで動画を見たりして新しい技にチャレンジしています。ひたすら練習を重ねて難しい技がやっと成功した瞬間はとても嬉しいです。

さらに技術を高めたいという意欲も湧いてきます。現在も練習中の技がありますが、実は半年ほど、ずっと同じポイントでつまづいています。でも、諦めないことが大切です。「頑張り続けられれば、いつか成功する」。このことを、サークルの活動を通じて実感を持って学ぶことができました。

### 仲間と一緒に技を究めて 観客に喜んでもらえる演技を。

ジャグリングは一人で行う競技ですが、やはり仲間と顔を合わせ、にぎやかに練習する時間が何よりも楽しいです。先輩も後輩も分け隔てなくコミュニケーションが活発で、いつも和やかな雰囲気なのがこのサークルの魅力です。私はサークル長として広い視野を持ち、積極的に自分から声をかけ、これからもこのサークルの良さを守っていきたいです。

イベントに出演する際は、メンバー

の演技を順番につなげて披露します。つい、自分の技を成功させることに集中してしまいがちですが、プログラム全体の流れを意識し、お互いに「技の順番を変えてみたら?」「もっと大きな動きを入れるといいよ」など、客観的なアドバイスを送り合いながら盛り上がる構成を考え、ステージを作り上げます。そして本番で練習の成果が発揮でき、観客の皆さんの笑顔が見られた時はとてもやりがいを感じます。サークルを始めてジャグリングという新たな特技ができたこと、そして大勢の前で演技をする経験を積み、人前に出る度胸が付いたことは、自分にとって大きな自信になったと実感しています。

今年は新型コロナウイルスの影響で岐大祭をはじめ、出演予定だったイベントがいくつも中止となってしまいました。今後のイベントも状況を見ながらの開催になると思いますが、観客に喜んでもらえる技を披露できるよう、変わらず練習に励んでいきます。



岐阜大学流域圏科学研究センター  
児島 利治 准教授

顧問の児島利治准教授は五十棲さんを、「積極的に活動の時間を確保し、サークル全体を盛り上げてくれている」と評価。「ジャグリングを通して得た小さな成功体験は、将来困難な状況に陥ったときも、きっと乗り越える力になってくれると思います」と話す。



地域の福祉施設や子ども会などから依頼を受け、ステージ披露を行う。観客にいかにも楽しんでもらうかを重視して、演技のプログラムを考えている。



## 松尾機構長、森脇久隆大学総括理事就任記者会見及び看板除幕式を挙行了しました

令和2年4月1日(水)

国立大学法人岐阜大学と国立大学法人名古屋大学が法人統合し、国立大学法人東海国立大学機構が設立したことを受け、名古屋大学において、同機構長、大学総括理事両名の就任記者会見及び東海機構の看板除幕式を挙行了しました。就任記者会見では、松尾清一名古屋大学総長、森脇久隆岐阜大学長が就任に際しあいさつし、今後の抱負を語りました。



## 令和2年度岐阜大学新入生に向けて祝福メッセージを掲載しました

令和2年4月7日(火)

令和2年度の本学入学式は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、新入生の健康・安全面を最優先に考えた結果、中止いたしました。森脇学長、松尾機構長から新入学生1,926名に向けた祝福メッセージを本学WEBサイトに掲載し、新入生を歓迎しました。



松尾機構長



森脇学長

## 「2020ふるさとづくり事例集」に岐阜大学地域協学センターが掲載されました

令和2年8月5日(水)

全国各地の地域活性化策を紹介する「2020ふるさとづくり事例集〜こころをよせる そこにかかわる〜」に、「『地域活性化の中核拠点』として地方創生に貢献東海国立大学機構岐阜大学地域協学センター」が掲載されました。本事例集に大学で取り上げられているのは、岐阜大学と香川大学のみです。9月7日(月)には、益川地域協学センター長らによる森脇学長への報告が行われました。



## 「令和2年度基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業」の採択通知交付式を開催しました

令和2年8月6日(木)

岐阜大学教育推進・学生支援機構(キャリア教育部会)が「令和2年度基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業」の採択通知交付式を開催しました。本事業は、学生が創造する学生のための自主的活動を支援し、学生生活の活性化に貢献するとともに、岐阜大学の学生として身につけてほしい基盤的能力(「考える力」「伝える力」「進める力」)の育成を目的としています。



## 法人・団体から寄付をいただきました

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、各種団体から寄付をいただきました。

令和2年5月19日(火)

駐名古屋中華人民共和国総領事館から医療用マスクおよびウエットティッシュが寄贈されました



令和2年7月3日(金)

日本航空株式会社から機内食を寄付していただきました



令和2年4月15日(水)

大学間学術協定校の広西大学からマスクが寄贈されました



令和2年5月29日(金)

株式会社みらい、農業組合法人桜尾生産組合からお米を寄付していただきました



令和2年8月12日(水)

岐阜南ライオンズクラブから支援金が贈呈されました



## 令和2年度秋季岐阜大学大学院連合農学研究科及び連合獣医学研究科学学位記授与式を行いました

令和2年9月18日(金)

令和2年度秋季岐阜大学大学院連合農学研究科および連合獣医学研究科学学位記授与式を岐阜大学講堂にて行いました。両研究科の博士課程及び論文博士の修了者を対象として、森脇学長から代表者に学位記を授与しました。両研究科の修了者数は下記の通りです。

連合農学研究科 博士課程12名  
連合獣医学研究科 博士課程7名、論文博士1名



## マレーシア国民大学と国際シンポジウムを開催しました

令和2年9月22日(火・祝)・23日(水)

岐阜大学はマレーシア国民大学と共同で、食品科学における国際シンポジウム「UKM-GIFU University International Symposium on Food Sciences」をオンラインで開催しました。マレーシア国民大学は本学の工学研究科とジョイント・ディグリープログラムを設置している海外協定大学の一つです。本シンポジウムには、2日間で計45名の両大学の教員・学生が参加し、有意義な研究交流となりました。



## 岐阜大学指定寮U・TOPIA LAND別館の運用を開始しました

令和2年7月2日(木)

有限会社友とびあ(以下友とびあ)が管理する学生宿舎U・TOPIA LAND別館を岐阜大学指定寮に認定し、令和2年度から運用を開始することとなりました。

本件は、本学で学ぶ外国人留学生及び日本人学生に住居を安定して提供し、学生が優良な住居を安心して選定できることを目的として、友とびあと留学生等宿泊施設に関する覚書を締結し、本学が認定したものです。



## WEBオープンキャンパスを行いました

令和2年7月31日(金)

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本学が例年8月に行っている通常のオープンキャンパスを中止し、WEBオープンキャンパスを実施しました。

特設WEBサイトは、大学説明や入試情報、キャンパスの周辺マップや岐阜大学での生活モデル等を掲載し、実際に訪れることなくキャンパスライフをイメージできるものといたしました。



## 学生表彰式を実施しました

令和2年10月28日(水)

岐阜大学は、優秀な成績を挙げた者、学術研究活動において顕著な業績を挙げた者、課外活動において顕著な成績を挙げた者及び社会活動において高い評価を受けた者などに対し、表彰を行っています。10月28日(水)に学業成績優秀者20名が表彰を受け、森脇学長から表彰状と記念品が授与されました。今後も本学は学業に励む学生を応援します。



## 第29回地球環境大賞「文部科学大臣賞」を受賞しました

令和2年11月5日(木)

岐阜大学は、フジサンケイグループが主催する第29回地球環境大賞の「文部科学大臣賞」を受賞し、学長への報告が行われました。岐阜大学地方創生エネルギーシステム研究センターが、産学官連携による社会実装試験を推進し、再生可能エネルギーの発電に加え、人工知能や水素技術、電動車両などを組み合わせた最適エネルギーマネジメントシステムの構築を目指していることなどが高く評価され、今回の受賞となりました。



# 新型コロナウイルス感染症対策と これからの大学教育

## 対面授業とe-Learning授業のベストミックスを求めて

本学は、9月24日(木)に村上啓雄名誉教授(一般社団法人ぎふ総合健診センター所長、岐阜県新型コロナウイルス感染症対策調整本部座長)を招き、森脇学長及び福井副学長(企画・教育・評価・基金担当)と鼎談を行いました。

本学は、対面授業や学生同士のコミュニケーションの重要性を考慮し、なるべく対面授業が実施できるよう授業実施方針や課外活動の活動指針を示し、6月から対面授業を一部開始しています。しかし、新型コロナウイルスに関する多くの情報に惑わされて、登校することを躊躇している学生の存在があることも認識しています。そこで、新型コロナウイルスに関する知識を持ち、「正しく恐れ、正しい対策をとる」ことの重要性を理解していただき、学生だけでなく保護者や教職員の不安解消につなげたいと考えて本鼎談を企画しました。以下が鼎談の内容となります。

### 岐阜大学の授業実施方針について

**司会(福井副学長):**前学期において対面授業開始に踏み切った本学の教育に対する考え方や当時のお気持ちをお聞かせください。

**森脇学長(以下森脇):**大学教育は知識習得のみを目的とするのではなく、事象に対する判断や考え方を学ぶことができ、それを学べる対面授業は大学教育の根幹を成すものだと考えています。また、授業にe-Learningを導入する場合においても、その質を担保することが重要です。岐阜大学は、大学教育の質の保証を担保しながらe-Learningと対面教育のベストマッチに取り組むという理念のもと、まずはe-Learningを全面的に導入し徐々に対面教育に移行してきました。10月からの後学期においても、対面教育を重視し拡充していく方針です。

**司会:**本学は前学期から授業実施方針を定め、新型コロナウイルスの感染拡大防止に留意しながら授業を行ってきました。本学の対応をご紹介ください。

**森脇:**マスク着用や手指消毒の徹底を呼び掛けるとともに、通学の混雑緩和のため授業時間を変更しました。e-Learning形式の授業においては、学生のネットワーク環境や課題提出への配慮を行うとともに、機器購入の支援等を行いました。また、大学に登校する学生の数が50%程度になるよう授業を調整するとともに、教室内の着席位置の把握や教室の換気、学生間の距離の確保などに取り組んできました。

**司会:**本学の授業実施方針に対してどのような感想をお持ちでしょうか。

**村上名誉教授(以下村上):**多くの大学が人と人の接触を避けるためe-Learningを中心に考えている中、岐阜大学は対面教育の重要性を考慮し両者をうまく連携している点は大変素晴らしいと思います。

まずはマスクをしっかりと着用させること、手指衛生を正しく徹

底させること、また、体調管理を徹底したうえで、授業を実施する必要があります。併せて、着座位置の確認や換気など、対面授業を実施したとしても感染が生じない対策が取られていると思います。

**司会:**前学期は登校する学生数を50%程度に抑制していましたが、後学期は60%程度とするよう規制を緩和しました。その点についてはいかがでしょうか?

**村上:**プロスポーツの収容人数も緩和されおり、少しでも緩和の方向に向かうために60%にされたものと推測しています。全面的な緩和に向けて気持ちの面で少しずつステップを上げるという面では、60%に緩和したことはよいのではないかと思います。

**司会:**保健所の指導によれば、教室の学生間の距離を1m以上開けることが望ましいと言われており、本学でも対応していますが、教室の収容人数等を考慮すると必ずしも1m開けられない教室も見受けられるようです。その点はいかがですか?

**村上:**それはマスクを着用していない状況での距離であり、マスクを全員着用している状況であれば飛沫やエアロゾルは発生せず、飛沫感染のリスクは生じません。マスクを着用したうえで、1m程度以上の間隔を取りましょうということだと思います。

**司会:**前学期から体調管理の徹底や着座位置の記録などに取り組んできています。後学期もこのまま継続すればよろしいでしょうか?

**村上:**教室内でクラスターが発生することはないと思われますが、感染者の近い友人などが接触者検診の対象になる可能性があります。接触者を正確に把握するには行動履歴や着座記録などは重要であり、感染拡大の防止のため、継続して取り組んでいただきたいです。

**森脇:**学生に対しては行動履歴を記録するためのシートを配付しています。また、食堂でも、座席数を削減するなど周密状態を避ける工夫を行っています。

### バスや電車での感染予防について

**司会:**バスや電車を利用して通学している学生から、通学時が不安であるといった声が届いていますが、それらに対する本学の取り組みをご紹介ください。

**森脇:**バスの混雑が不安であるという声を踏まえ、バスの増便を行い、前学期では朝6便夕方4便を増便しました。前学期の乗車率を考慮し、後学期には夕方のみ6便増便することとしています。また、学生も含めた乗客に対する注意喚起として、時差通学の推奨、マスク着用の促進、車内会話の自粛をお願いするアナウンスを私の声で作成し流す予定です。また、接触確認アプリCOCOAの利用推奨も予定しています。

**司会:**JRやバスなどの公共交通機関を利用して通学する学生が注意すべき点や、不安解消につながるアドバイス等があればお聞かせください。

**村上:**マスクを着用すること、車内での会話を最小限とすることを守れば感染リスクを抑えることができます。感染しているけれども症状が無い者が存在しているなかで、誰しもが感染している可能性を考慮して全員がマスクを着用していれば、飛沫やエアロゾルは発生せず、新型コロナウイルスには感染しません。ただ、接触感染もあり得るため、電車やバスのつり革などを触った手を口や顔に持ってこないことや乗車前後に手指衛生を行うことなどにも留意してほしいですね。たとえマスクを着用していない乗客がいたとしても、バスは十分な換気を行っていることや自身がマスクを着用していること、会話は最小限とすることを守れば、ある程度密の状況でも感染リスクの不安を持つ必要はありません。

### サークル活動時の留意事項について

**司会:**学生にとっては、サークル活動などの課外活動は大学生生活の中で有意義な活動の一つであると思いますが、課外活動に対する本学の現在の対応状況をご紹介ください。

**森脇:**サークル活動を再開したいという声は早い段階から聞えてきていました。また、サークル活動は大学教育や大学生活にとって重要であると認識しています。9月14日付で、課外活動の活動指針レベルを3から2に下げ、感染防止策を講じたうえで屋内でも課外活動をできるようにしたところです。ただし、会食を伴うものや密閉空間、密集場所、密接場面となる行事等は、中止としています。

**村上:**活動指針の内容はすべて適切だと思います。特に、会食や合宿の中止を継続した点は重要です。他の事例を見ると、スポーツ中ではなく会食やコンパなどで感染していることが多いです。活動指針レベルを下げたことで感染リスクが高まったわけではなく、会食や合宿の禁止をしばらく継続することで安全に活動できると思います。

### PCR検査の実施やインフルエンザ予防について

**司会:**PCR検査の実効性についてはどのようにお考えでしょうか。また、インフルエンザの流行時期も近づいており、気を付けることなど専門家からのアドバイスをいただけないでしょうか。

**村上:**PCR検査が陽性であればウイルスを保有していることとなりますが、ウイルスを保有していても陰性と判定されるいわゆる偽陰性が最大3割程度存在しています。また、偽陰性に加え、新型コロナウイルスの潜伏期間等を踏まえると、感染当初の時期は陽性にならないこと、PCR検査で陰性であったとしても数日後も陰性であり続ける保証はないことがPCR検査の限界であると考えます。このことから、PCR検査が陰性であったとしても遅れて陽性になる場合もあり、保健所は濃厚接触者に対して

14日間の自宅待機と健康観察を要請しています。仮に対面授業の再開時にすべての学生に対してPCR検査を行って陰性であったとしても、偽陰性の疑いがあるため、何も対応せずとも良いのかという問題があります。インフルエンザの際も、偽陰性の方から感染が広まった事例があります。体調管理やマスクの着用などを徹底していれば感染が拡大することはないと考えられるため、全員へのPCR検査の実施よりも感染予防策の徹底の方がより現実的な方策だと思います。全員がマスクを着用する環境であれば、やみくもにPCR検査を行う必要はありません。インフルエンザは新型コロナウイルスよりも比較的接触感染が目立ちますが、現在の感染防止措置が継続する以上はインフルエンザの感染が爆発的に増えることはないと思われます。現に、夏場に流行する他の感染性疾患も激減しています。体調不良時の安静、マスクの着用、手指消毒の徹底など、引き続き感染防止措置に取り組めばインフルエンザの感染者も減少するのではないかと期待しています。

### 第3波、第4波が起こった場合の対応について

**司会:**今後、もしコロナウイルス第3波、第4波が起こった場合の本学の対応についてお聞かせください。

**森脇:**警戒は怠らず、感染防止措置を含んだ取り組みを維持していきたいと思っています。もし第3波、第4波が起こった場合は、大学内に限った問題ではなく、社会の状況を常に注視していく必要があります。岐阜県や岐阜市などの関係機関と連携し、早めに対応していきます。併せて、村上先生にもご指導いただきたいと思っています。

**司会:**今後、もしコロナウイルス第3波、第4波が起こった場合の心構えやアドバイスがあればお願いします。

**村上:**ウイルスはある一定の期間で活動が収束する傾向にありますが、人に感染すれば増殖してしまいます。第3波、第4波が起こったとしても、新たな取り組みを行うわけではなく、現在と同じ感染防止策に取り組む必要があります。ほとんどの方がマスクを着用していれば感染は拡大しません。

### 今後の大学教育などについて

**司会:**いわゆる「ポストコロナ時代」を見据えた本学の教育方針や大学教育の在り方などお聞かせください。

**森脇:**大学教育の基本は対面授業です。一方、本年度に初めて大規模なe-Learning教育の導入を経験し、e-Learning教育の良さもわかってきたところです。科目によってはe-Learning教育による教育効果の向上も想定でき、それぞれの良さを活かした対面授業とe-Learning授業のベストミックスを求めていきたいと考えています。コロナの危機を乗り越えて新たな教育を目指していきます。

**司会:**コロナウイルス流行以前のような平穏な日々は訪れるのでしょうか。

**村上:**国際的なデータを見ても、再び増加傾向にあります。ただ、日本では感染者数は確実に減少しており、この事実にある程度自信を持ちつつ感染防止策を実施していくことで、一定の期間を過ぎれば感染状況も落ち着いていくのではないのでしょうか。一人一人が感染予防策を徹底することにより、感染防止策と日常の楽しみとの両立もできつつあるのではないかと感じています。将来的な状況はまだ見通せるわけではありませんが、夜明けは来るものと思っています。

**司会:**「正しく恐れ、正しい対策をとる」ことを習慣づけることで、将来の平穏な日々近づいていくと理解しました。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

多くの皆様から岐阜大学基金へ
ご寄附をいただき、心より
お礼申し上げます。

岐阜大学基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。

この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

基金による事業展開

岐阜大学における学生支援、国際交流、特色ある研究活動及び地域貢献などを充実・発展させるために、皆様方から寄附頂いた寄附金により、次のような事業の充実を図ります。

Table with 2 columns: 事業名 (Student support, international exchange, etc.) and 内容 (Details of support).

ご寄附者芳名録

令和2年3月から令和2年9月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順に感謝の意を込め、ご紹介させていただきます。また、10月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。

現在、実施しております学生支援事業、教育研究活動支援事業、地域貢献活動支援事業、キャンパス環境整備事業、修学支援事業、新型コロナウイルス感染症緊急学生支援事業等を充実するために、今後とも、岐阜大学基金へより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます

Large table listing donor names in 50-character order (A-Z).

Large table listing donor names in 50-character order (A-Z).

橋本 雅彦 様	日比野 洋司 様	古田 和子 様	松久 初子 様	三輪 妙子 様	安永 晴一 様	山本 典生 様
橋本 茉莉名 様	平井 太郎 様	古田 千鶴子 様	松久 文子 様	三輪 崇 様	安福 嘉則 様	山本 真理子 様
長谷川 桜子 様	平尾 正誓 様	古田 まき 様	松本 啓一 様	三輪 晴夫 様	谷藤 浩司 様	山本 保興 様
長谷川 豊 様	平岡 淳 様	古田 誠 様	松本 俊明 様	三輪 陽子 様	弥富 章 様	湯上 澄子 様
畑中 文徳 様	平田 史子 様	古田 光雄 様	松山 欣壽 様	向井 俊行 様	柳井 谷 司 様	百合草 正昭 様
服部 圭一 様	平田 公伸 様	星 葉子 様	松山 博行 様	麦谷 有志 様	篠田 藤子 様	横尾 真一 様
服部 政一 様	平手 達郎 様	細川 由美子 様	馬淵 茂男 様	武藤 淳二 様	矢野 隆彦 様	横田 勇司 様
服部 泰男 様	平野 太志 様	細田 文一 様	馬淵 静香 様	武藤 哲夫 様	矢野 治久 様	横谷 勇 様
巾 淳二 様	蛭川 友司 様	細野 寿 様	丸山 幸太郎 様	武藤 範幸 様	山内 毅 様	横幕 國広 様
浜口 智則 様	廣江 武典 様	細野 泰弘 様	丸山 文子 様	村上 欣子 様	山内 徹 様	横山 明男 様
濱口 義行 様	廣江 勝代 様	堀 昭治 様	三浦 貞志 様	村上 克 様	山内 博美 様	横山 正治 様
濱中 優行 様	廣澤 実 様	堀内 久友 様	三浦 孝志 様	村上 美鈴 様	山内 亮 様	吉岡 眞 様
濱松 義信 様	廣瀬 治良 様	堀江 晃 様	三浦 典夫 様	村下 香苗 様	山川 政信 様	吉川 英治 様
浜村 吉昭 様	深沢 晋治 様	堀場 博郎 様	三浦 靖成 様	村下 望 様	山岸 直 様	吉川 利彦 様
早川 一雄 様	深田 武志 様	堀部 奈美 様	三鴨 勲 様	村瀬 成一 様	山口 起立 様	吉田 勇 様
早川 徳男 様	深谷 秀巳 様	堀部 好彦 様	御崎 晶嗣 様	村瀬 文夫 様	山口 賢三 様	吉田 慶太 様
早川 昌宏 様	福井 正信 様	本多 晶二 様	三島 輝夫 様	村瀬 輝起 様	山口 多朗 様	吉田 敬 様
早川 芳光 様	福井 守 様	本田 正司 様	水庫 利重 様	村瀬 道雄 様	山口 英徳 様	吉田 政直 様
早矢仕 郁夫 様	福井 裕子 様	前川 和彦 様	水嶋 亮介 様	村田 周二 様	山口 水篤 様	吉田 稔 様
林 翔平 様	福岡 好未 様	前川 忠敏 様	水谷 恵子 様	村田 裕行 様	山腰 美佐子 様	吉田 保裕 様
林 聖也 様	福田 正 様	牧 容子 様	水谷 忠司 様	村田 裕 様	山崎 節代 様	吉村 安弘 様
林 毅彦 様	福田 寛隆 様	牧戸 茂子 様	水谷 田鶴子 様	村松 弘章 様	山崎 宣次 様	米増 都紀子 様
林 輝生 様	福永 知己 様	牧野 守 様	水谷 宏 様	村本 尚洋 様	山崎 義英 様	劉 友明 様
林 勝知 様	藤井 光政 様	牧村 一也 様	水野 邦彦 様	室岡 和子 様	山下 研二 様	六郷 惠哲 様
林 雅人 様	藤居 由美 様	馬島 和良 様	水野 利男 様	銘 苺 様	山下 等 様	若杉 聡 様
林 町子 様	藤井 裕美子 様	増田 計三 様	水野 憲一 様	毛 受 様	山田 淳 様	若村 泰彦 様
林 睦齊 様	藤井 宣仁 様	又吉 純一 様	水野 隼人 様	森 綾子 様	山田 公江 様	若山 明弘 様
林 泰男 様	藤垣 祐美 様	町田 光夫 様	水野 宏 様	森 和代 様	山田 圭一 様	若山 和明 様
林 吉男 様	藤垣 良弘 様	松井 鉦明 様	水野 康正 様	森 克己 様	山田 浩二 様	脇田 英和 様
原 秀一 様	藤崎 篤 様	松井 みどり 様	水野 芳晴 様	森 茂雄 様	山田 修士 様	脇田 律子 様
原 純一郎 様	藤田 泰次 様	松井 瑛子 様	水野 芳也 様	森 茂男 様	山田 剛広 様	和田 直美 様
原 昌太 様	藤田 孝子 様	松尾 治 様	溝口 徹 様	森 大鳳 様	山田 孝實 様	渡邊 彬子 様
原口 佳也 様	藤田 文雄 様	松尾 恵太郎 様	三橋 賢四郎 様	森 透 様	山田 俊郎 様	渡邊 建 様
原田 和泉 様	藤田 真実 様	松尾 世雄 様	皆田 英信 様	森 眞弓 様	山田 朋子 様	渡邊 悟美 様
坂 秀己 様	藤野 舜一 様	松尾 治美 様	湊 紀夫 様	森 麻由美 様	山田 知幸 様	渡邊 哲之 様
伴野 祥平 様	伏見 知彦 様	松尾 幹雄 様	南井 良文 様	森 川浩二郎 様	山田 浩 様	渡邊 紀美 様
日置 英一 様	藤本 正憲 様	松岡 成典 様	箕輪 光頭 様	森川 茂樹 様	山田 真由香 様	渡邊 則治 様
東 修次 様	藤森 雅博 様	松岡 恵子 様	宮城 穂 様	森川 順子 様	山田 珍 様	渡邊 光啓 様
樋口 真穂 様	藤森 了堅 様	松川 裕 様	三宅 収 様	森腰 俊亨 様	山田 裕 様	渡邊 峯雄 様
久松 義幸 様	伏屋 孝子 様	松木 雄 様	宮腰 政貴 様	森崎 隆雄 様	山田 素之 様	渡邊 保生 様
菱川 昇 様	二村 敦朗 様	松坂 吉偉 様	宮崎 富誠 様	森下 有輝 様	山田 順孝 様	
日高 健 様	船坂 國秀 様	松田 明 様	宮西 徹 様	森田 英仁 様	山中 實 様	
日比野 佳奈 様	船坂 民平 様	松永 慈海 様	宮西 裕子 様	師橋 賢太郎 様	山中 康義 様	
日比野 武志 様	舟橋 あや子 様	松野 守男 様	宮本 俊輔 様	八木 孝司 様	山本 明美 様	
日比野 千佐子 様	舟橋 紀久男 様	松原 保 様	宮脇 修 様	矢嶋 英敏 様	山本 翔吾 様	
日比野 敏晴 様	舟橋 清治 様	松原 永吉 様	三和 敦子 様	八代 田忠一 様	山本 新 様	
日比野 守 様	舟橋 まゆみ 様	松原 秀幸 様	三輪 隆 様	安田 竜二郎 様	山本 純正 様	
日比野 雄二 様	古川 重教 様	松原 豊 様				

他655名様

法人・団体等

(株)アイエスシー 様	各務同窓会 岐阜市役所支部 様	岐阜大学地域科学部同窓会 森の会 様	中部美化企業 (株) 様
愛知県高等学校教員支部 様	各務同窓会 富山県支部 様	(有)岐阜大学前不動産 様	東亜合成 (株) 様
(一社)あかつき心理教育相談室 様	(有)かない動物病院 様	工業倶楽部西濃支部 様	徳倉建設 (株) 様
アビ (株) 様	岐阜県厚生農業協同組合連合会 様	コダマ樹脂工業 (株) 様	長良サイエンス (株) 様
(株)天野企画 様	岐阜県信用農業協同組合連合会 様	(医)ささき小児科 様	(医)万裕会 さもりファミリークリニック 様
(株)市川会計 様	岐阜県農業協同組合中央会 様	SANEI (株) 様	特許業務法人 広江アソシエイツ特許事務所 様
イハラサイエンス (株) 様	岐阜市役所・岐阜大学工業倶楽部 様	(株)関ヶ原製作所 様	福岡技術士事務所 様
イビデン (株) 様	岐阜大学工業倶楽部関西支部 様	全国共済農業協同組合連合会岐阜県本部 様	芳化会 様
内堀醸造 (株) 様	岐阜大学工業倶楽部関東支部 様	(株)泰成工業 様	丸ス産業 (株) 様
大垣精工 (株) 様	岐阜大学工業倶楽部中部支部 様	大日本土木 (株) 様	(有)ランド設計 様
(株)オーテックス 様	岐阜大学獣医学科三重県同窓会 様	(有)高橋鉄工所 様	

他64法人

岐阜大学基金についてのお問い合わせ先  
 国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学 Development Office (DO室)  
 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1  
 TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279 E-mail kikin@gifu-u.ac.jp

岐阜大学基金の詳細については、WEBをご覧ください。  
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



求む「技術の継承者」

ただ一筋に愚直に改良を重ねてきた技術。  
 あまりにもあたりまえの存在だから、つい見過ごされてしまいます。  
 でも私たちの技術は確実に根付いています。  
 Prestressed Concreteの技術に携わる  
 これからの仲間との出会いを楽しみにしています。



ABE NIKKO KOGYO  
 安部日鋼工業

岐阜本社  
 〒500-8638 岐阜市六条大溝3丁目13番3号  
 TEL (058) 271-3391 (代)



清流の国ぎふ  
 岐阜の新しい就活はじまる!

# オール岐阜 企業フェス ONLINE

対象 県内外の大学生、大学院生、第2新卒、高校生、保護者など

- どこでもいつでもチェックしよう!
- 県内優良企業の情報満載!
- オンライン説明会や動画配信多数!

Coming soon  
 2021年2月1日  
 3月下旬までロングラン開催!

詳しくはコチラ

セミログ岐阜  
 ウィズコロナ時代の就活に挑む  
 学生の応援サイト

バーチャル会社説明会サイト  
 「セミログ岐阜」オープン!

いまスグ、スマホの  
 ホーム画面に登録!

http://semilog.jp/gifu

■岐阜大学業界研究会のご案内  
 【テーマ】アフターコロナの事業戦略・働き方改革の取り組み  
 岐阜県を代表する企業が岐阜大学生の為に業界研究会を実施!  
 日時:2021年1月6日(水) 13:00~  
 参加形態:ZOOM  
 ※詳細はキャリアセンター就職支援室に確認ください!

●運営会社  
 株式会社44-project(フォーティフォープロジェクト)  
 〒500-8137 岐阜市東興町27番地 中広ビル3階  
 TEL:058-215-0661

## 令和3年4月 社会システム経営学環が新設されます

社会システム経営学環は、いわゆる学部の枠を超えて、他学部、他大学、そして社会との連携の中で、学生と教員が一緒になって成長する「学び」の「環(わ)」です。経営にイノベーションをもたらし、豊かな社会の創造、活力ある社会システムの実現に貢献できる、実践的な能力を修得した人材の育成を目指します。卒業時に「学士(経営学)」の学位が授与されます。

詳しくは社会システム経営学環  
WEBサイトをご覧ください



## 令和3年度岐阜大学入試情報

大学入学共通テスト 令和3年1月16日(土)、17日(日)

または 1月30日(土)、31日(日)

前期日程試験 令和3年2月25日(木)、26日(金)

後期日程試験 令和3年3月12日(金)、13日(土)

詳しくは

岐阜大学  
WEBサイト  
「入試案内」を  
ご覧ください



## アンケートに答えて 岐阜大学オリジナルマスキングテープをGET!!



デザインは学生が考案しました

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。

岐阜大学広報誌「岐大のいぶき No.40」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、**抽選で6名様**に学生がデザインを考案した**「岐阜大学オリジナルマスキングテープ(2種類)」**を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切:

令和3年5月31日(月)必着

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。  
※重複での応募は無効とさせていただきます。



### 「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生氣・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、「伊吹おろし」と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

■発行：国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学広報企画室

■「岐大のいぶき」についてのご意見感想をお待ちしております。

送付先 / 国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学管理部総務課広報室広報係  
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 TEL 058-293-2009 / 3377 FAX 058-293-2021  
Email kohositu@gifu-u.ac.jp

岐大のいぶきは WEB からご覧いただけます!

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



岐阜大学公式  
Twitter  
やっています。



こちらからアクセス!

TWITTER, TWEET, RETWEET and the Twitter logo are trademarks of Twitter, Inc. or its affiliates.